

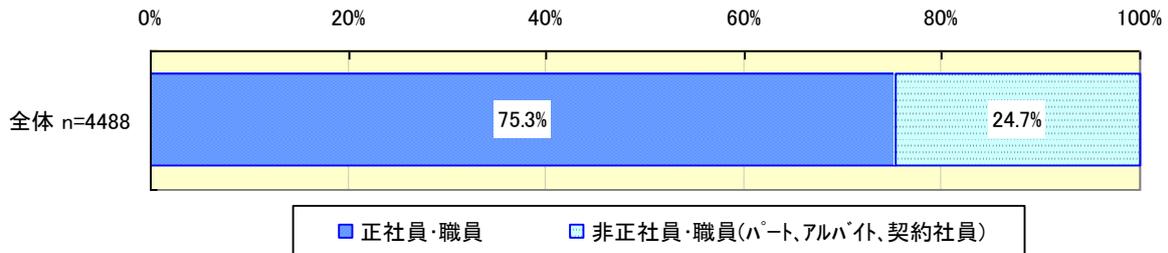
## 2. 現在の仕事の状況

### (1) 現在の就業形態

#### ■本人

本人の就業形態は、「正社員・職員」が全体の約4分の3、「非正社員・職員」が約4分の1である。

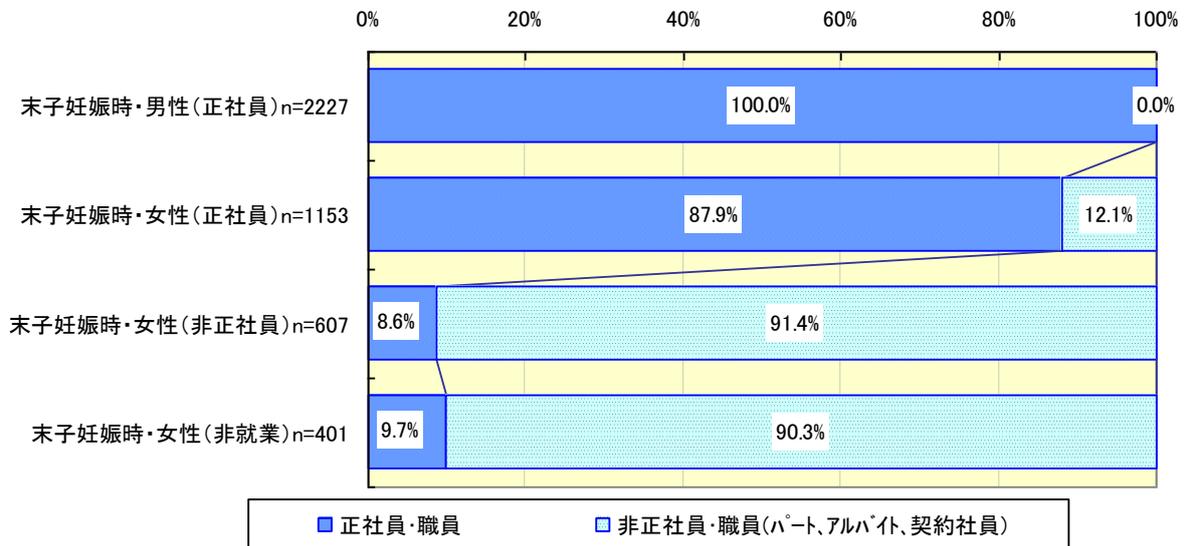
図表Ⅲ-9 本人の就業形態：単数回答（QSC7）



また、本人または配偶者の末子妊娠時の就業状況別に、現在の就業状況を見ると、末子妊娠時の就業形態が「男性（正社員）」（配偶者が末子妊娠時）の場合は、現在は「正社員・職員」が100.0%、「女性（正社員）」の場合は、「正社員・職員」が87.9%、「非正社員・職員」が12.1%である。

また、末子妊娠時の就業形態が「女性（非正社員）」「女性（非就業）」の場合はともに、現在は「非正社員・職員」である人が約9割を占めている。

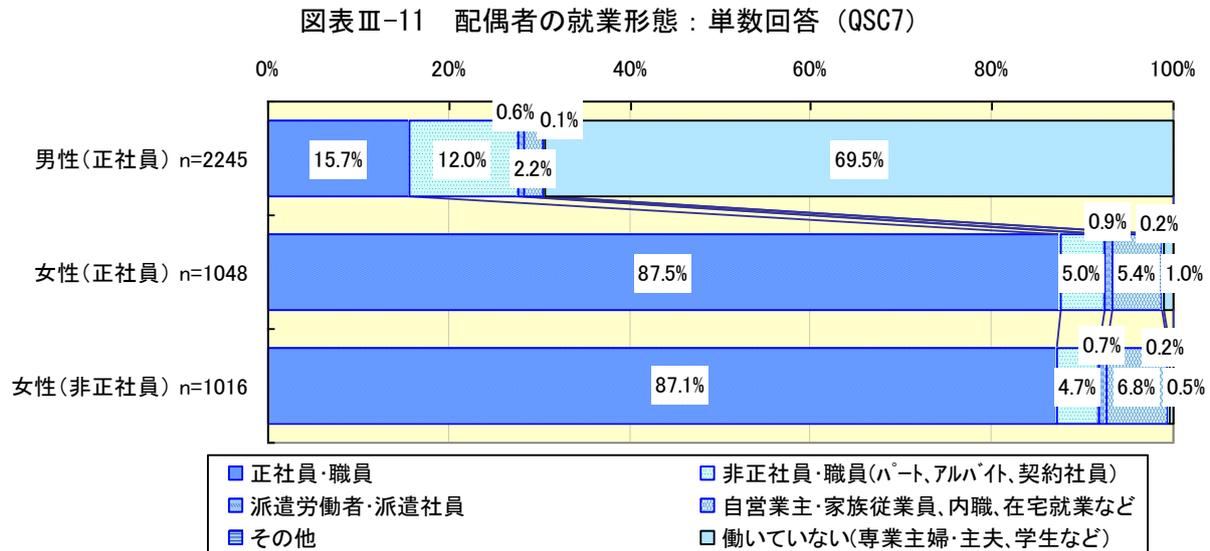
図表Ⅲ-10 末子妊娠時の就業形態別 本人の就業形態：単数回答（QSC7）



## ■配偶者

現在の就業形態別に、配偶者の就業形態をみると、「男性（正社員）」は「働いていない」が約7割で最も割合が高く、次いで「正社員・職員」が15.7%、「非正社員・職員」が12.0%となっている。

「女性（正社員）」「女性（非正社員）」はともに、「正社員・職員」が9割弱を占め、次いで「自営業主・家族従業員、内職、在宅就業など」が5%強となっている。



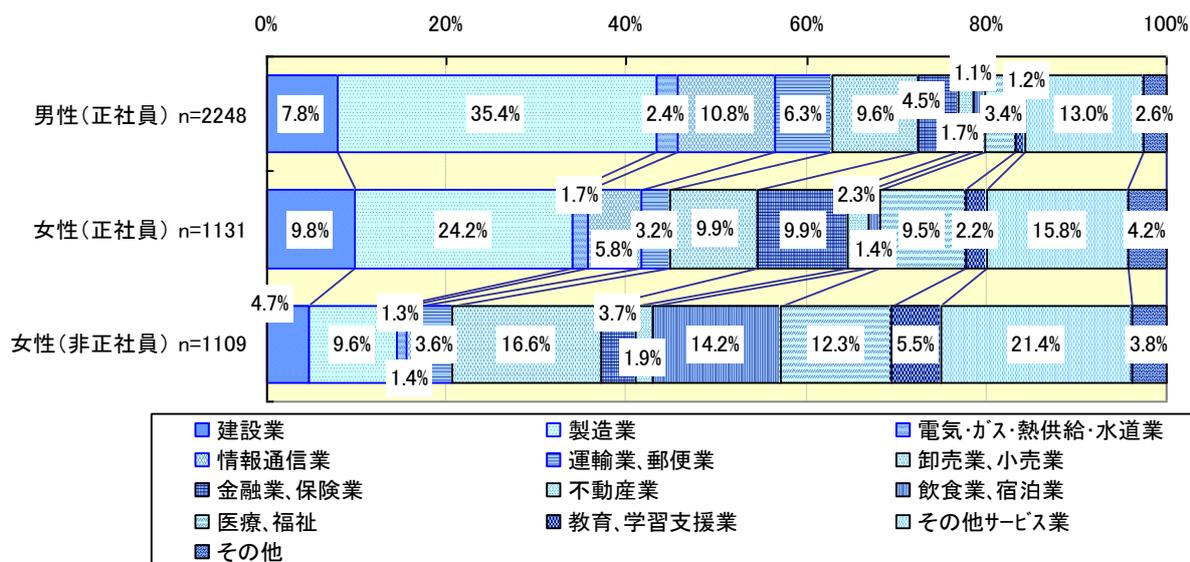
## (2) 業種

現在の勤務先の業種をみると、「男性（正社員）」は「製造業」が35.4%で最も割合が高く、次いで「その他サービス業」が13.0%、「情報通信業」が10.8%である。

「女性（正社員）」は「製造業」が24.2%で最も割合が高く、次いで「その他サービス業」が15.8%で続いている。

「女性（非正社員）」は「その他サービス業」が21.4%で最も割合が高く、次いで「卸売業、小売業」が16.6%、「飲食業、宿泊業」が14.2%となっている。

図表Ⅲ-12 業種：単数回答（QSC8）

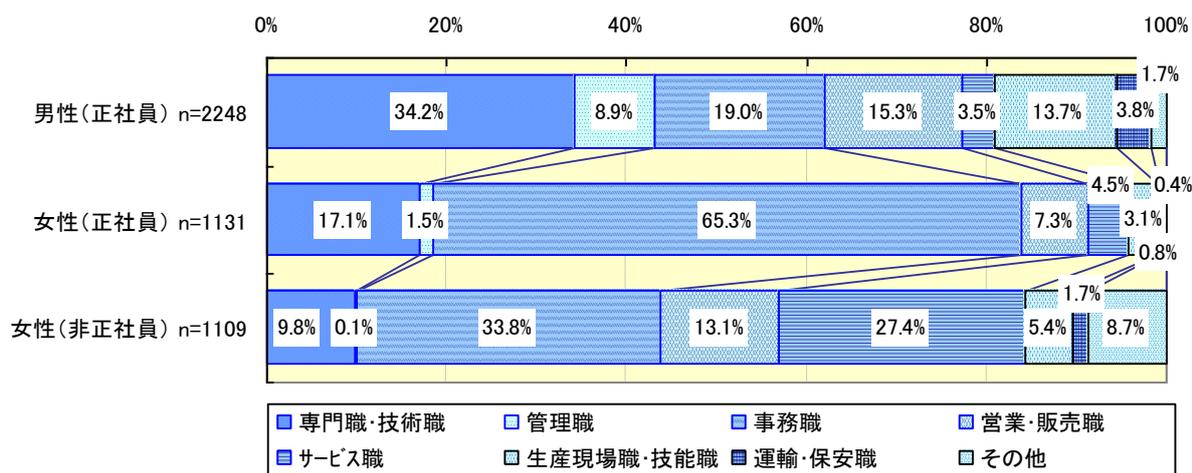


### (3) 職務

現在の職務をみると、「男性（正社員）」は「専門職・技術職」が 34.2%で最も割合が高く、次いで「事務職」が 19.0%、「営業・販売職」が 15.3%で続いている。

「女性（正社員）」は「事務職」が 65.3%で最も割合が高く、次いで「専門職・技術職」が 17.1%、「女性（非正社員）」は「事務職」（33.8%）と「サービス職」（27.4%）の割合が、それぞれ3割前後である。

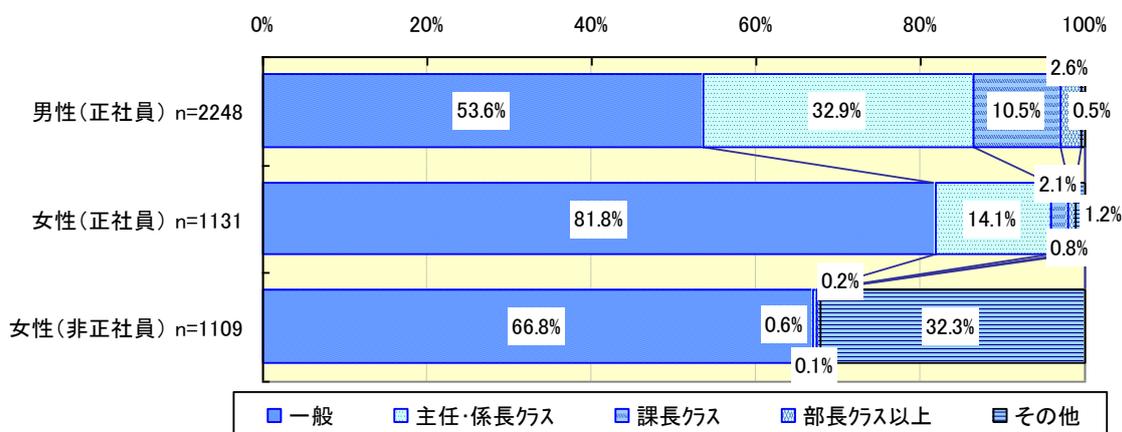
図表Ⅲ-13 職務：単数回答（Q5）



### (4) 役職

現在の役職をみると、「男性（正社員）」は「一般」が 53.6%、「主任・係長クラス」が 32.9%、「課長クラス」が 10.5%である。「女性（正社員）」は「一般」が 81.8%、「主任・係長クラス」が 14.1%で、課長クラス以上はほとんどみられない。「女性（非正社員）」は「一般」が 66.8%、「その他」が 32.3%となっている。

図表Ⅲ-14 役職：単数回答（Q6）



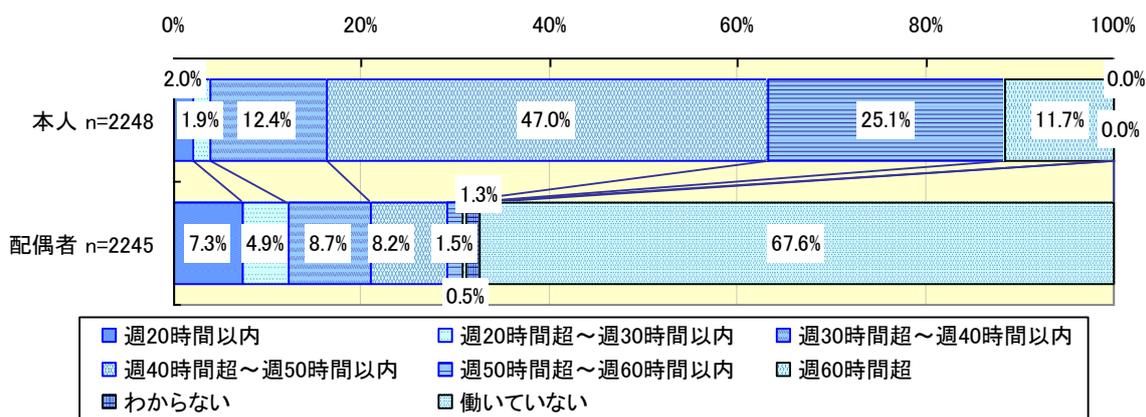
### (5) 1週間の実労働時間

「男性（正社員）」について、本人・配偶者の1週間の実労働時間をみると、本人は「週40時間超～週50時間以内」が47.0%で約半数を占め、次いで「週50時間超～週60時間以内」が25.1%である。また、配偶者は、「働いていない」が7割弱で、働いている中では「週30時間超～週40時間以内」が8.7%である。

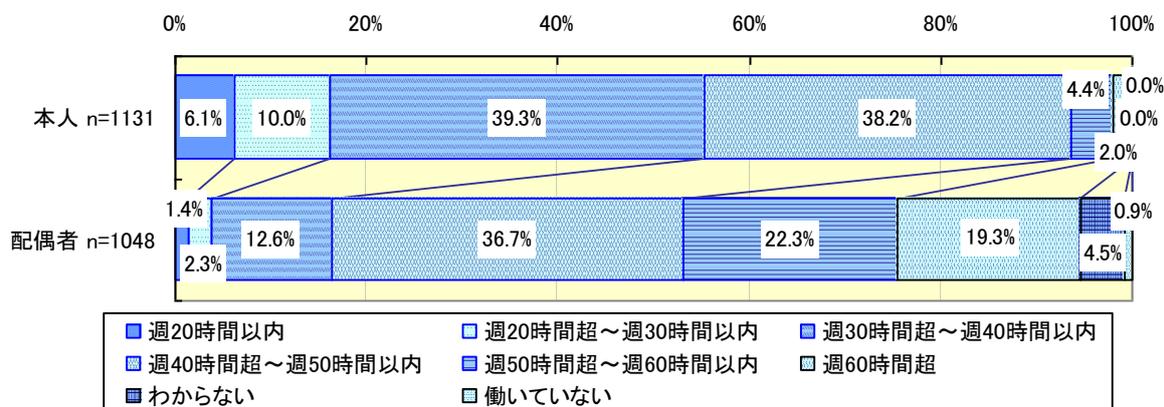
「女性（正社員）」については、本人は「週30時間超～週40時間以内」（39.3%）、「週40時間超～週50時間以内」（38.2%）がそれぞれ4割弱を占めている。配偶者は、「週40時間超～週50時間以内」が36.7%で最も割合が高いが、「週50時間超～週60時間以内」（22.3%）、「週60時間超」（19.3%）もそれぞれ約2割にのぼっている。

「女性（非正社員）」については、本人は「週20時間以内」（48.5%）が約半数を占め、次いで「週20時間超～週30時間以内」（31.4%）が約3割である。配偶者は、「週40時間超～週50時間以内」が39.9%で最も割合が高いが、「週50時間超～週60時間以内」（15.8%）、「週60時間超」（17.0%）もそれぞれ2割弱となっている。

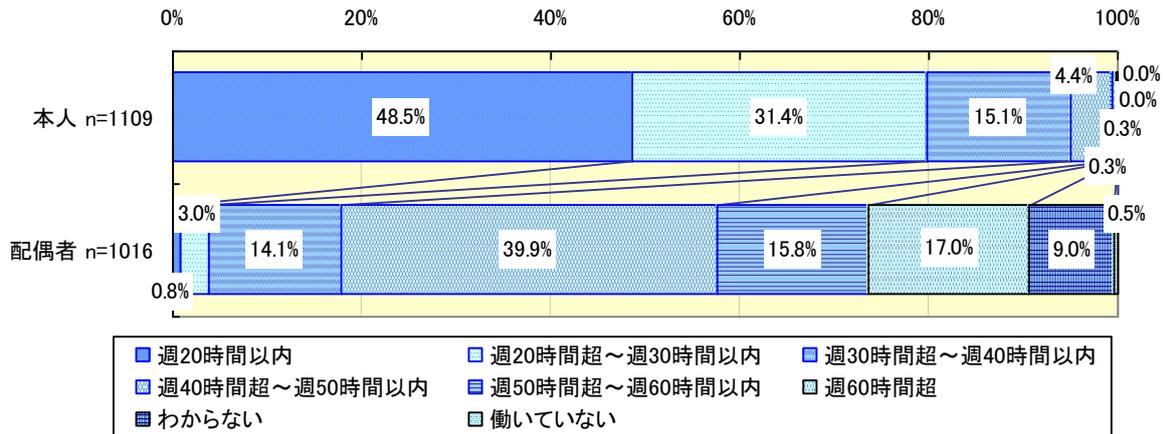
図表Ⅲ-15 男性（正社員）：本人・配偶者の1週間の実労働時間：単数回答（Q7）



図表Ⅲ-16 女性（正社員）：本人・配偶者の1週間の実労働時間：単数回答（Q7）



図表Ⅲ-17 女性（非正社員）：本人・配偶者の1週間の実労働時間：単数回答（Q7）



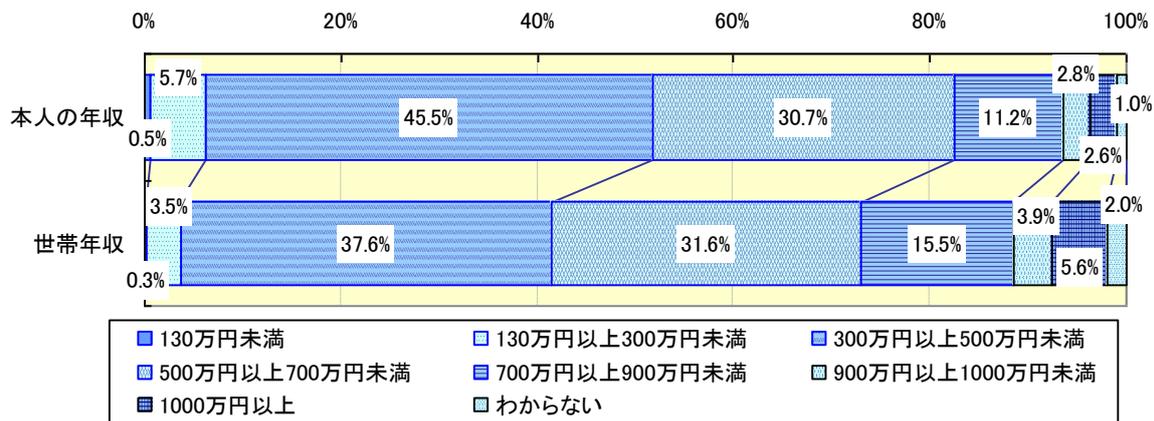
(6) 年収

「男性（正社員）」について、本人の年収及び世帯年収をみると、本人・世帯とも「300万円以上500万円未満」の割合が4割前後で最も高く、次いで「500万円以上700万円未満」が約3割である。

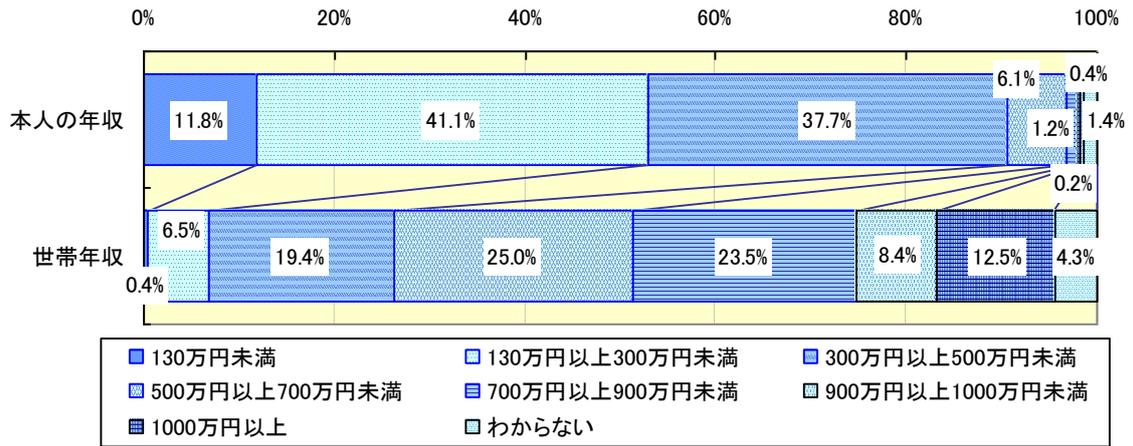
「女性（正社員）」については、本人は「130万円以上300万円未満」（41.1%）と「300万円以上500万円未満」（37.7%）がそれぞれ4割前後である。世帯年収は、「300万円以上500万円未満」（19.4%）、「500万円以上700万円未満」（25.0%）、「700万円以上900万円未満」（23.5%）がそれぞれ2割前後となっている。

「女性（非正社員）」については、本人は「130万円未満」（84.2%）が8割以上を占めている。世帯年収は、「300万円以上500万円未満」（40.6%）が最も割合が高く、次いで「500万円以上700万円未満」が26.9%である。

図表Ⅲ-18 男性（正社員）：本人の年収と世帯年収：単数回答（Q4）



図表Ⅲ-19 女性（正社員）：本人の年収と世帯年収：単数回答（Q4）



図表Ⅲ-20 女性（非正社員）：本人の年収と世帯年収：単数回答（Q4）

